

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホームしんせい		
所在地	新潟県新潟市江南区曾川甲1333番地1 (電話) 025 - 281 - 5775		
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3F		
訪問調査日	平成	19年	9月30日

【情報提供票より】 19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 6月 5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 6人、非常勤 2人、常勤換算	7.75人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	平屋 建ての	1 階	部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 月額	25,000 円	

(4) 利用者の概要 (19年 9月現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	名	要介護2	3名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 86.3 歳	最低 65 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 仁成会 とやの中央病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新潟市郊外にあり、周囲は穏やかな田園風景が広がっている。併設の特別養護老人ホームとは廊下でつながっており、交流訪問や行事の参加等がなされている。また、施設のマイクロバスを活用してグループホーム利用者全員での外出ができ、郊外の梨・ぶどう園への旅行も実現した。ホーム内はリビングの天井が高く開放的であり、天窓や窓・天井から吊るされた和紙のライトが落ち着いた雰囲気をつくっている。壁には利用者の作品や写真が飾られ、家庭的な暖かみがある。

管理者・職員は利用者とともに、「明るく・楽しく・和やかに」という理念の実現に向け協同して取り組んでいる。ホーム内には入居者と職員の元気な歌声が響き、笑顔とチームワークがあり、理念どおりの雰囲気がある。職員は、利用者の希望一つひとつを大切にしており、「競馬場に行きたい」という希望を叶えて、利用者・家族・職員が一日競馬を楽しんだり、さらに現在は「好きな歌手のコンサートに行きたい」という希望実現にむけて取り組んでいる。今後は、地域との交流をさらに深め、地域の社会資源としての役割を発揮していくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は外部評価結果を謙虚に受け止め、評価を活かした具体的な改善に取り組んだ。『運営理念の啓発』をはじめとする『地域との関わり』は、運営推進会議や、月1回ホームで行なう絵手紙教室等を通じて取り組んでいる。『家庭的な空間づくり』として、浴室・脱衣場の間仕切りシャワー・カーテンを取り付けて落ち着いた入浴できるようにし、職員の服装は揃いのジャージから私服やネーム入りポロシャツに改善した。『場所間違いの防止策』では、居間や食堂にあった施設を思わせる既成のプレートに手作りのカバーをするなど工夫して施設的な雰囲気をカバーしている。職員体制の面では、宿直体制から夜勤体制に変更して馴染みの職員が夜勤を行なうことで入居者も落ち着き、また、職員も夜間の様子を把握することができ、日中のケアの向上にもつながった。事故報告書の活用は併設園長・管理者・職員一丸となり改善に向けて取り組んだ。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>併設の特別養護老人ホーム園長とホーム管理者・職員は、自己評価・外部評価の意義を十分に理解し評価に取り組んでいる。外部評価結果については、謙虚に受け止め、評価を活かした具体的な改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回開催しており、利用者の家族・地域の民生委員・児童委員・地域包括支援センター職員との参加を得て、ホームの活動報告・外部評価結果等について話し合い、サービスの向上に活かしている。市町村担当者とはホーム運営上等の疑問点で常に連絡を密に行なっている。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議の他に地区の連絡協議会に積極的に参加することで連携を図り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホーム内事務室の窓口に意見箱を設置し、家族が気軽に意見が出せるようにしている。また、法人全体でもそれぞれのサービス毎の家族が参加する家族会を設置し、家族の意見を運営に反映させている。さらに、居室担当者から3ヶ月毎に会計報告・一人ひとりの利用者の日頃の様子・写真・ホームだより等送付し、健康状態や薬の内容等、利用者の変化もその都度連絡を行なっている。しかし、会計報告において支払い内容の報告が十分ではない。現在も高額な買い物等はその都度家族の了解を得ているが、より確実な報告となるよう、領収書及び明確な明細書を添付して報告を行なうことが望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周りには人家がなく、近隣の住民や町内会との日常的な交流が難しい面があり、十分には行なえていない。ホームの向かいには小学校があり、学校行事の参加や小学生との交流は図られている。今後は、運営推進会議等に近隣町内の代表等にも参加していただくなど、地域交流のきっかけづくりを期待したい。それをきっかけに回覧等を利用してホーム内活動の周知をすすめたり、ホームで行っている絵手紙教室等により多くの地域住民の参加を働きかけるなど、さらなる取り組みの広がりを期待する。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく楽しく和やかに」また「家庭にあるが如く」をモットーに、利用者に日々ゆったりと生活してもらえよう支援している。利用者・管理者・職員がともにホームの理念を大切にしている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は毎月の会議や日々の話し合いで理念の共有化と実現に向けて取り組んでいる。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえようように取り組んでいる	運営推進会議を2ヶ月に1回のペースで開催し、利用者の家族・地域の民生委員・児童委員の参加を得ており、ホームの理念を伝えたり活動報告等を行うことでホームの理解浸透に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りには人家がなく、近隣の住民や町内会との日常的な交流が難しい面があり、十分には行なえていない。ホームの向かいには小学校があり、学校行事の参加や小学生との交流は図られている。		地域との交流のきっかけづくりとして、近隣町内会の代表に、運営推進会議への参加や回覧板の利用、ホームでの絵手紙教室の周知などについて協力を依頼するなど、さらなる働きかけを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	併設施設の園長・ホーム管理者・職員は、自己評価・外部評価の意義を十分に理解し評価に取り組んでいる。外部評価については、結果を謙虚に受け止め、評価を活かして具体的な改善を行ない、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族・地域の民生委員・児童委員・地域包括支援センターの参加を得て2ヶ月に1回開催し、ホームの活動報告や外部評価報告等を行ない、話し合いの内容をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、ホーム運営上等の疑問点があれば常に連絡をとっている。また、地域包括支援センターとも、運営推進会議の他に地区の連絡協議会に積極的に参加することで連携を図り、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は毎月の部会や法人の勉強会で虐待に関して学び、日頃から話し合いを行い虐待防止に努めている。また、家族とも情報交換を密に行ない、虐待を見逃さないように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当者から3ヶ月毎に会計・日頃の様子・写真・しんせいだより等送付している。また、健康状態や薬等、利用者の変化はその都度連絡を行なっている。金銭管理について、買い物での出金前後には家族に連絡し了解を得ているが、家族への会計報告の際に明細書や領収書の添付はなされていない。		買い物の際はその都度家族の了解を得ているが、報告時に領収書および明細書の添付を行なうことで、用途が明確になり、金銭トラブルの防止と家族との信頼関係のさらなる構築につながると考えられる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内事務室の窓口に意見箱を設置し、家族が気軽に意見が出せるようにしている。また、法人全体でそれぞれのサービス毎の家族が参加する家族会を設置し、家族の意見を運営に反映させている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議で職員の活発な意見が出されている。また、併設施設の園長が週3～4日ホームを訪れた際に、職員との交流を通して意見を聞き、業務の見直し等運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設とホーム間での職員の異動は行なわれていない。職員の離職時には、職員全員で離職職員の担当していた利用者の日常ケアに取り組むことで、担当交代による利用者のダメージを防ぐよう配慮している。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルが整備されている。見直しもホーム・法人全体で必要に応じきめ細かく行なわれている。会議等で職員に周知を図り、また、職員がいつでも見れるような場所に設置している。新規採用職員には口頭での指導とともに資料配布もおこないマニュアルの徹底を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として充実した研修体制が確立されている。職員の段階に応じて外部研修を積極的に参加し、情報交換の機会としている。研修内容は月一回の部会や研修報告書等で共有を図っている。毎月の会議の際にも必要に応じて課題別の研修を行なうとともに、法人全体でも必要に応じた研修が行なわれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員・利用者がともに他のホームへ見学訪問に出かけたり、新設ホームの職員研修の受け入れ協力もしている。しかし、サービスの質の向上を視点としたネットワーク・勉強会等の同業者交流はまだ進んでいない。		今までの交流に加え、交換研修等、各々のホームのサービスの質の向上を目指したさらなる取り組みを行うことで、それを地域全体の認知症ケアの向上につなげていくことが期待される。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回程度の食事会や法人の親睦会を通してストレス解消を図っている。また、併設施設の園長が日常的にホームを訪れ、職員が園長とも気軽に話ができる雰囲気づくりをしている。管理者も、職員への声かけを密に行い、悩みなどあれば聞くよう心がけ、職員のストレス軽減に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、家族と共に日帰りで事前にホームを訪れてもらい、ホームの雰囲気等を確認して納得してもらった上で、本人・家族と話し合いながら進めている。入居後は、本人が安心して徐々に馴染めるように職員が言葉かけや対応に配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に、テーブル拭きなどのそれぞれの利用者が得意な分野での家事作業を担っている。また、季節ごとの行事計画の折に、料理・書道等の利用者の過去の経験や技術を引き出しており、職員はそれを学び、共に楽しんで支えあっている。		
13 - 2	28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会等で意見を引き出したり、ホーム行事にはできる限り利用者と共に楽しんでもらえるよう働きかけている。また、本人の居室のシーツ交換などを家族に手伝ってもらったこともある。こうした働きかけを通して、職員と共に支えていく関係づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活を利用者本位に考え、利用者一人ひとりの生活リズムや思い、希望を把握し、それらを受け入れて実現するよう努めている。実際に「競馬場に行きたい」といった希望を実現して家族と共に出かけ楽しい一日を過ごしてもらった。現在は「好きな歌手のコンサートに行きたい」という希望をかなえようと取り組んでいる。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査において利用者・家族からの聞き取りを十分に行い、入居後はできる限りその生活環境を大切にして支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人・家族・居室担当者とは話し合い、本人・家族の意向を中心に、その人らしくより良く暮らせるよう、入居者の状態に合わせた介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月処遇検討会議を行って介護計画を評価し、3ヶ月毎の見直しを行なっている。また、利用者の状態の変化に応じて担当者会議を開き、本人・家族と話し合い、随時見直しも行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、柔軟に通院支援をしている。また、併設施設の訪問歯科を活用してきめ細かい口腔ケアを行ない、利用者の咀嚼機能の向上につなげている。リハビリを兼ねたレクリエーション活動も実施し、歩行機能の向上等を支援している。通所介護や短期入所介護は、居室が全て利用されているため、現在は行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が継続的に適切な医療を受けられるよう、本人・家族の希望に合わせて、かかりつけ医・協力病院への毎月の定期受診・歯科検診等を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化・終末期に向けては、併設の特別養護老人ホームや協力病院への移行を支援する方針を入居者・家族・職員が共有している。移行の時期についても慎重に話し合い共有している。また、併設特別養護老人ホームや協力病院での支援方法に関しても、本人・家族の意向の把握にも努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇り・気持ちを十分に理解し、言葉かけや対応に配慮している。また、記録等の持ち出しも含めて個人情報の取り扱いについても共有を図っている。外部の見学者・実習生に対しても個人情報を漏らさないように指導している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを把握して大切に、利用者職員がともに楽しみながら、園芸・散歩・テレビ番組・歌等、それぞれの希望にそった日々の暮らし方を支援をしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週3回は利用者と共に大型スーパーに食材の買い物に出かけている。その日の新鮮な食材や利用者それぞれの好みを取り入れての食事づくりをしている。買い物の荷物持ちや、ゴマすり・野菜切り・味付け等の調理、茶碗拭き等、それぞれの利用者の能力を活かして役割分担している。食事は、職員も利用者と共に摂り、楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表で把握し、職員間で共有している。利用者の能力に応じた声かけや誘導を行ない、気持ち良く排泄ができるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に入浴の希望時間等についてアンケートを実施し、本人の希望を大切にしている。食事や就寝の妨げにならないように現在は月～土曜日の午後を入浴時間とし、少なくとも一人が週2回程度は入浴できるよう支援している。また、拒否が多い利用者には全身清拭・足浴を支援している。		事業所には利用者の希望をくみ取ろうという積極的な姿勢がある。今後も継続的にアンケート等で利用者の希望を把握し、それを大切にした支援を続けていってほしい。
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとの一つとして、毎朝レクリエーションや趣味活動の時間を設け、好きな歌を歌ったり、家族へ絵手紙を書いたり、書道をするなど、一人ひとりが好きな事、得意な事ができるよう支援している。役割についても、力が発揮できるように得意な事・今までの経験を活かした内容を支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって、ホーム裏の公園や周りの田んぼ道を散歩して楽しんでいる。また、日常の買い物のほか、天気の良い日のドライブ、外食会、果物狩り等の季節行事等、積極的に外出支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は身体拘束をしないケアを正しく理解しており、身体拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵をかけていない。利用者は、外出希望時は職員に声をかけることが習慣となっており、職員は利用者の希望や気持ちに合わせて共に散歩等を楽しんでいる。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルが整備され、利用者一人ひとりの状態に応じた取り組みが行なわれている。事故報告書等で全職員に共有し再発防止に繋げるよう努めている。		再発防止策を部会等で職員と十分に検討して実施しているが、期間を定め、実施した対応策の評価を行なうことで、更なる防止・気づきに繋げることを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	全職員がいつでも対応できるよう安全管理マニュアルを共有している。消防署の協力で心肺蘇生指導を受け急変に備えている。また、併設施設の看護師の協力を得て、職員の技術段階に応じた実技訓練や研修も実施している。新採用の職員には管理者自らが指導をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	ホーム向かいに消防署・小学校があり、災害時には協力を依頼している。近隣に人家はないが、今後は運営推進会議に町内会の代表者からも参加してもらえるよう働きかけ、協力体制づくりを進める考えである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量・水分量を把握するとともに、栄養のバランスを併設施設の栄養士に定期的に相談し、献立に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地の良い生活空間づくりに努めており、玄関前には花のプランターを置いたり、玄関を入ったところにソファを置きひと休みできるようにしている。利用者が落ち着いてくつろいで入浴できるよう、浴室と脱衣室の間仕切りとしてシャワーカーテンを設置したり、窓辺に緑や花を飾っている。車椅子用の広さを確保したトイレが設置されており、廊下も車椅子のすれ違いができるよう広々としている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には家族や若いころの自分の写真を飾ったり、使い慣れた家具が置かれており、利用者一人ひとりのこれまでの生活に配慮し、落ち着ける居室づくりをしている。ベッドサイドには、身体の状況に合わせて滑り止めマットや手すりを設置し、安心して過ごせるよう工夫している。</p>		